

富山県農村医学研究会発会までの 経過ならびに会員名簿

設 立 趣 意 書

高度成長経済の過程のなかであって、最近の農業界は、大きな影響をうけており、農業生産機構、労働力ならびに経営構造はめまぐるしく変遷しております。兼業化の進行とともに経営方式の変化が見受けられる反面、老人、婦人を中心とする経営形態が年々増加いたしております。

本県におきましてもこの現象は顕著にあらわれており、農業経営の近代化に即応し、新しい観点にたつて農村保健の諸問題について真剣に検討を行なう必要があります。

由来、農村は単なる人の集団ではなく、一定の階級構成をもって、その生活環境の中で有機的に結ばれている地域社会と考えなければなりません。この地域社会全体の健康の保持を考えようとするとき、そして、これを実践しようとするときは、一つの組織が必要となるわけであります。この意味におきまして、富山県農村医学研究会を設立しようとするものであります。

かえりみますれば、過去10数年、本県において、農村保健に関する業績は数多く発表されていますが、それぞれの関連においていささか乏しい感みがないでもありません。ここにおいて、その連帯性を強めるとともに農業の動きに対応した新しい調査研究をもゆるがせにはならないと思われまます。

主婦労働による農夫症の増加、機械化に伴う農業災害、農業による危害、潜在性疾患による健康障害、人畜共通伝染病のまんえん、さらに成人病など採りあげねばならない問題は多種多様にわたっております。

このような情勢のなかであって、この研究会は、本県における農山村の実態を医学的に調査研究を行ない、医療と保健に関する各般の事項について総合的な把握を行ないながら、保健活動を通じて、健康な農山村生活を築き上げるために寄与しようとするものであります。